

「平等だということ」

奈波 寛祥

最近、テレビや新聞のニュースを見ていて思うことがあります。それは、学校では、教師による体罰や学生同士のイジメ問題、日本社会では、いろいろな詐欺問題や殺人事件、また海外では、テロや無差別殺人事件の報道をよく見ることです。

私は、「このような悲しい報道しかないのか、楽しい話題はないのか」と思います。しかし、このような悲しい報道を見ていると、まるで社会に対して何か不満をもち、ぶつけているのではないかと。または、人を苦しめることで自分自身の悩みや苦しみから逃れているのではないかと思うのです。

しかし、何があっても、人が人を苦しめることはあってはならないことなのです。なぜなら、人は皆平等だからです。平等とは、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」と福沢諭吉の言葉のとおりだと思います。

そのような中、なぜこういった事件は起こるのでしょうか。

先ほど、人は平等だと言いましたが、皆さんは、自分と他人が平等だと言い切れませんか。私自身、言い切ることができません。だからこそ、事件は起こるのではないのでしょうか。「世間が悪いから、自分はこうなってしまった」、「こいつは自分より弱いからイジメてやれ」、「私の言っていることが何故他の人に通じないんだ」、こういったことから事件を起こし、人を傷つけ苦しめているのではないのでしょうか。

私自身も人は皆平等であると思う反面、「あの人は良い人だ、悪い人だ」、「あの人は自分より凄い人だ、劣っている人だ」と比較をしてしまいます。

人は皆平等だと誰もが思っていると思います、しかし自分自身と比較をしてしまうのです。それは何故でしょうか。人はそれぞれの価値観や考え方といった違いをもっているからではないのでしょうか。人は、自分自身と他人を比較することで、自分より優れた人を見ては恨み、自分より劣っている人を見ては優越感をもつのではないのでしょうか。

人が人を傷ついたり苦しめることはあってはいけません、しかし、人は他人と比較することで悩み苦しみから逃れることも事実なのだと思います。宗祖親鸞聖人は、自らの体験の中で、「総ての人に御同朋・御同行」と解かれています。宗祖親鸞聖人の教えを学ぶ者として、徹底して万人の平等を説く事が大切なのです。